

2020年度第4回経営協議会議事要録

- 1 日時 2021年1月28日(木) 14:15~16:01
- 2 場所 豊橋技術科学大学学長室他
オンラインビデオ会議システム (Google Meet) を利用して開催
- 3 出席者 議長 寺嶋学長
鎌土委員, 合田委員, 谷口委員, 松井委員, 若林委員, 山本委員, 角田委員, 神野委員, 伊津野委員
- 4 欠席者 浅井委員 (委任状提出)
- 5 列席者 佐藤監事, 牧監事, 大貝特別顧問

6 議題

[審議事項]

- (1) 第4期中期目標・中期計画の策定について
- (2) 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる本学の適合状況等について

[報告事項]

- (1) 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について
- (2) 令和3年度予算案の内示について
- (3) 新型コロナウイルス感染症への対応について

[その他事項]

- (1) 第7回研究大学シンポジウムの開催について

7 議事

上記のとおり出席があり、経営協議会は有効に成立し、寺嶋学長が議長となり、本会議はオンラインビデオ会議システムにて開催する旨宣言した。

議事に先立ち、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認された。

また、2020年度第3回議事要録(案)について、原案のとおり確認された。

[審議事項]

- (1) 第4期中期目標・中期計画の策定について

山本理事及び伊津野委員から、資料「審議1」に基づき、第4期中期目標期間における本学の中期目標及び中期計画の検討状況について説明があり、審議の結果、7月末の文部科学省への提出期限に向け、本会議での意見を踏まえ、引き続き検討を行うことが承認された。

主な意見等については、次のとおり。

- ・法人独自の中期目標として記載しているデジタル・トランスフォーメーションへの取組は、今後どの大学でも共通して取組む事項になると思われるので、計画内容については、本学でなければ取組めない事項を記載し、特色を打ち出していきたい。
- ・20年またはその先を見据えた計画と考えると、17項目の目標を設定すると分散してしまうと思われるため、目標を絞り、特長を磨く方針とした方が分かりやすくなるのではないか。
- ・国の国立大学法人に関する議論を踏まえつつ、目標を明確に設定し、期間中一貫して取り組む項目を引き続き検討していきたい。

- (2) 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる本学の適合状況等について

山本理事から、資料「審議2」に基づき、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる本学の適合状況等の洗い出し状況及び報告書案について説明があり、審議の結果、本会議及び会議後の委員等からの意見を踏まえ、報告書の最終公表案を作成し、委員等に事前確認の上、本学ホームページにて公表を行うことが承認された。

主な意見等については、次のとおり。

- ・報告書の作成作業に関わる担当者の過重労働の防止や、書類を読む者の負担軽減を考慮した、簡潔明瞭な記載が重要と思われる。

- ・文部科学省、内閣府及び国立大学協会でガバナンス・コードへの対応方針が決定された以上、各大学においても対応は必要となるが、この機会を活用し、大学の取組をさらに外部へ発信していただきたい。また、来年度に取組を行うとされている項目についても、今年度の取組状況や方針を示さないと、外部からは取り組んでいないと見なされてしまうため、大学側の論理だけでなく、外部からどのように見えるかを意識した上での報告書作成が必要である。
- ・文部科学省や学生等、各ステークホルダーへの対応のバランスを取りながら、本学の特色を打ち出すための文面化とシステム化を検討していただきたい。
- ・どのような人が報告書を読んでも理解ができることが重要と思われるため、見出しを付ける等、読み手がどのような内容が記載されているか把握しやすくする工夫が必要と思われる。

[報告事項]

(1) 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について

山本理事から、資料「報告1」に基づき、12月23日付けで国立大学法人評価委員会より通知のあった、令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について、報告があった。

(2) 令和3年度予算案の内示について

事務局長から、資料「報告2」に基づき、令和3年度の国立大学関係予算案の概要及び本学の運営費交付金等の概要について、報告があった。

主な報告内容は次のとおり。

- ・12月21日に政府予算案の閣議決定を受けて国立大学関係予算案の概要について伝達が、12月25日に法人個別の運営費交付金等の一部経費について内示があった。本学の最終的な全体予算については、次回会議にて報告を予定している。
- ・教育研究の基盤設備を整備する設備整備費補助金が令和2年度第3次補正予算として100億円計上され、本学ではX線高度構造解析システムが措置された。
- ・本学から現在、デジタルを利用した大学・高専教育高度化プラン、科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業及び先端研究設備整備事業補助事業へ申請又はその準備を行っている。
- ・令和2年度補正予算での施設整備費実施予定計画事業として、総合研究棟（B棟）改修Ⅱ期、ライフライン再生（実験実習工場空調設備）及び基幹・環境整備（衛生対策等）の3件の事業について内示があった。

(3) 新型コロナウイルス感染症への対応について

学長から、資料「報告3」に基づき、新型コロナウイルス感染症への対応について、報告があった。

主な報告内容は次のとおり。

- ・前回会議以降に、本学で5名の感染者が発生し、新型コロナウイルス感染症危機対策本部室を中心に対応を行った。
- ・1月7日に緊急事態宣言が発出され、愛知県も対象地域に含まれたことから、1月14日付けで本学の活動基準レベルを全体的に2.5に引き上げ、学内の活動について強い制限を行い、感染拡大防止のための対策を行っている。
- ・年末年始の学生生活の維持等への支援のため、休学者及び研究生等を除いた学生に対し、一律5,000円の給付型奨学金の支給を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策緊急募金への同窓会からの寄附を活用し、11月24日より募集を開始した「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生支援金」については、1月28日の時点で3回の選考を行っており、合計27名の学生に総額820万円の支援を行っている。
- ・教職員及び学生を対象とした、新型コロナウイルス感染症対策に係る学内シンポジウム「ウィズ／アフターコロナ時代における本学の取組及び将来改革に向けて」の第1回目を「学生支援（Studentファーストへの取り組みと現状）」をテーマに12月17日に開催した。

[その他事項]

(1) 第7回研究大学シンポジウムの開催について

山本理事及び田中副学長から、資料「その他」に基づき、3月22日にオンラインで開催予定の文部科学省研究大学強化促進事業第7回豊橋技術科学大学シンポジウムの開催について、説明があった。

以 上